

2023 年度第 3 四半期決算説明会 主な質疑応答

広報・IR部

【全体】

Q：2Q 発表時点の年間業績見通しに対する進捗は？

A：進捗状況は芳しくない。8 月に外部発表した時は年間の営業利益を 1,500 億円、下期の営業利益を 857 億円と見込んでいた。それに対して 3Q の営業利益は 312 億円で、差し引きをすると 4Q の営業利益は 545 億円必要となる。4Q は一番利益が出る時期であり、3Q よりは利益が出ると思うが、若干力不足だと思う。セグメントの営業利益見通しも変更していないが、オートモーティブは上振れが想定される。一方、化学品・ライフサイエンスは進捗が芳しくなく、足元の動向を考慮すると下振れリスクがあると考えている。

Q：営業利益の 3Q までの進捗率は 64%と弱く映るが、通期計画を維持した背景および達成への道筋を改めて伺いたい。3Q 対比で 4Q に大きな収益改善を期待できるのはどのあたりになるのか？

A：今回、通期営業利益見通しを 1500 億円から変更していないが、3Q までの累計を考えると厳しいと感じている。4Q は足元もクロールアルカリの市況等が不透明であり、見通しづらいため見直していない。セグメント別には、オートモーティブはおそらく上振れするが、その他のセグメントは見通しが難しい。化学品・ライフサイエンスは 3Q までの累計を考慮すると計画を達成するのは難しい。通常 4Q が最も利益が出るのでそうした改善は見込んでいるものの、4Q に想定外の大きなプラス効果や収益改善策は想定していない。

Q：業績下振れリスクが高いと感じるが減配のリスクはないのか？

A：当社は従前より安定配当を実施し、現時点でも連結配当性向 4 割程度を安定的に支払う方針であるため、現時点で減配は考えていない。

Q：2024 年度の各事業の見通しは？

A：現時点で 2024 年見通しを詳細にわたり説明することは難しい。現時点で申し上げられるのは、建築用ガラスは地域別に景気動向が懸念されるものの、あまり大きな変化はないと見込まれる。オートモーティブは価格・構造改革が進展していることで更にもう一段の業績改善が期待される。ディスプレイは今期かなり厳しかったが、現在進めている価格政策等による回復を期待している。電子部材は EUV が伸長しており来期も期待している。エッセシャルケミカルズは、クロールアルカリの状況が読めない中で慎重に考えるべきだとは思いますが、現時点の価格はかなり低いので、これ以上の悪化はないだろう。パフォーマンスケミカルズも期待しており、着実に伸びる見込み。ライフサイエンスは、バイオベンチャーへの資金流入減の問題がいつ解消するかは依然として読めないが、今期発生した新規設備の立上げ遅延や想定外の設備改修の部分は自助努力で戻せるため、必ず回復すると考えている。

Q：PBR1 倍割れに対する考えを聞かせてほしい。既に年初には過去最高の 500 億円の自己株買いの発表があったが、今後の資本に対する考えを伺いたい。

A：当社の PBR が低い背景は、ROE との相関が非常に強いことにあり、ROE の改善が欠かせない。ROE の Equity は 1.6 兆円で、自己株買いをしても 500 億円に過ぎず、Equity そのものの減少による ROE 改善は難しいと考える。王道ではあるが、ROE の改善には R を上げていくこと重要というのが今の考えだ。

【建築ガラスセグメント】

Q：建築ガラスについて、欧州の市場環境についてアップデートしてほしい。需要は前年同期比（3カ月）でどの程度下落しているのか？また需要のボトムアウトは見えているのか？

A：3Q(3カ月)では出荷数量は少し落ちている。欧州の景気が弱く、年末にかけても不需要期に入る。通常、非常に寒い時期、クリスマスなどのホリデーシーズンは建築が進まないため、12月、1月、2月は弱い。3月からどの程度戻るかについても、欧州景気が不透明で読みづらい。

Q：建築ガラスは、欧州で稼働調整が必要な状況まで来ているのか？

A：経済情勢は芳しくないが、省エネの流れの中で底堅い需要があり、現時点では大きな稼働調整をする状況にない。

Q：建築ガラスの来年の需要動向について、地域別ではどのように見ているのか？

A：日本は、引き続き省エネガラスに対する需要喚起もあり、価格面でよい状況が続くだろう。また、窓の高機能化に対する補助金についても、来年以降も継続が期待されている。アジアはそれほど大きな変化はない。欧州は非常に不透明で見通すのは難しい。2023年並みの状況であったとしても、ある程度の利益が出るので安心感はあるが、強い需要回復は見込みづらい。南米も2023年並みとみている。

【オートモティブセグメント】

Q：オートモーティブの販売価格の上昇は、4Qや来年前半も続くと見えていいか。

A：個別具体的には申し上げられないが、価格政策は重要で目標値を設定し、推進しているので、4Qにかけても進捗するだろう。来年以降も適正価格に向けた取り組みを進めていきたい。

【電子セグメント】

Q：電子セグメントの3Q営業利益はQoQで58億円改善しているが、うちディスプレイはどうだったのか？

A：電子セグメントの営業利益改善要因はほぼ電子部材。電子部材は季節性がある、その恩恵を受けた。ディスプレイはQonQでの数量減により稼働が落ちたこと、円安のマイナス影響も受け減益となっている。

Q：ディスプレイ用ガラスについて、競合は下期で2桁%の値上げを目指しているが、当社の価格対応の状況についてもう少し踏み込んでアップデートしてほしい。また、競合は来年前半には需要の回復を見込んでいるが、当社はどのように考えているのか？

A：当然我々も価格政策を進めており、対応していきたいと思っている。将来の価格は言及しないが、しっかりやっていきたい。現在ガラス基板の数量が減少していると申し上げたのは、顧客であるパネルメーカーでかなり稼働調整をして在庫を減らしている影響によるもの。在庫削減への対応が終われば再び生産に入るので、現時点では2024年前半に需要回復を見込むのが妥当と考えている。足元、業界大手のパネルメーカーで稼働調整がなされていると認識している。

Q：半導体材料のうち、EUVマスクブランクスは、今期に前期比+40%という予想に対してオントラックか。同業他社はEUVマスクブランクスの回復感も指摘していると思うが、来期も今期並みの伸びが期待できそうか。

A：売上高が前期比+40%という想定に対して、3Q時点でそれ以上の伸びが示せている。来期以降も更に高い成長が期待できる。

Q：EUV マスクブランクスで新規プレイヤーの参入があると思うが、影響はどうか。

A：他社の状況について回答するのは難しいが、当社に関して、現時点では大きな影響は出ていない。

Q：半導体向け CMP スラリーについては需要に回復の兆しは出ているか。

A：当社の CMP スラリーはハイエンド向けで、一般的に言われる半導体の調整に関して大きな影響は受けておらず、堅調に推移している。半導体も長期に見れば伸びていくので、大きな心配はしていない。

Q：半導体メーカーの中でガラス基板を採用する動きが活発化しているように思う。当社の事業機会は？競合状況や業績貢献の時間軸について可能な範囲で教えて欲しい。

A：先般、半導体メーカーが大々的に発表していたが、当社においても HP にて開示しているとおり、以前より研究開発を進めている。今後どうなっていくかわからないが、大きなビジネスチャンスの可能性もあり、引き続き取り組んでいく。

【化学品セグメント】

Q：PFAS 規制強化に伴うアップデートをお願いしたい。欧州ではパブリックコメントも締め切られ方向性が見えてきたと思う。米国での状況も含め規制の影響や顧客からの切り替えの動きなど、現時点の見立てを教えて欲しい。

A：当社では、現在問題となっている PFOS・PFOA について、PFOS は消火剤用途を含め生産したことがない。PFOA も規制に先駆けて全廃してきたことから、リスクは限定的だ。今残っているフッ素関係製品は、大部分が樹脂あるいは産業用途で一般消費者が触らない、人の体の中に入らないものなので、現在のところ大きなリスクとは思っていない。当然ながら、当社の中では PFAS 問題に対応する専門部署をつかって、的確に対応できるようにしている。

パブリックコメントは締め切られ、日本はもとより、この規制の法案を出したドイツからも驚くほどのパブリックコメントが寄せられたということで、この規制案がそのまま通るとは現時点では考えていない。半導体を含め、あらゆる産業に大打撃となるので、おそらくそういったことにはならないと考えている。欧州では、一部のフッ素化学品（PFHxA）については先行して別の規制議論が進んでおり、フッ素以外の代替品に移行する動きがあるが、現在のところ一般消費者用の用途に対する規制議論に限定されており、当社への影響も限定的。当社も慎重に対応していくが、現時点でのリスクに関して、従前話した内容から大きな変化はない。

Q：今後の塩ビ・苛性ソーダ市況の見通しは。

A：非常に不透明。当社に大きな影響があるのは、中国の塩ビ、苛性ソーダの需要だ。中国の景気、とりわけ建築、インフラの需要動向が重要となる。この需要が弱いと、キャッシュコスト程度の値段で中国から東南アジアに塩ビが流れてきて、影響を受ける。苛性ソーダの市況も様々な産業に関係しているが、経済が弱いと苛性ソーダの市況も弱い。中国の建築需要が弱いと、アルミの精錬や中国向けの製品が弱いということになり、苛性ソーダの市況も弱くなる。中国の建築・インフラ需要の動向と、ここに対する経済施策がどうなるかが大きな焦点となる。また、現時点では、中国の中での環境規制が以前より緩んでおり、今後、中国政府がどのように動くかがもう一つの焦点となっている。

【ライフサイエンスセグメント】

Q：ライフサイエンスの 3Q 営業利益が QoQ で大きく落ち込んでいるが、要因を説明してほしい。

A：合成医薬品 CDMO は大きな変化はない。バイオ医薬品 CDMO も、日本は大きな変化がなく、減益要因は欧米にある。要因は 2 つあり、1 つはボルダーの新工場立ち上げ遅延。2Q の半ばまで稼働していた設備を 3Q に完全停止したことによ

る影響が出た。更に影響が大きかったのがシアトルで設備改善のための大掛かりな改修を実施し、稼働調整の影響が出たことだ。シアトルの稼働調整は 3Q 中に完了しているので 4Q には影響しない。欧州は昨年も実施したが 3 Q に計画整備があったため、QonQ ではこの影響も出た。3 Q はある意味では様々な要因が重なりボトムとなった。

Q : ライフサイエンスにおける新規設備の立ち上げ問題は SUS 2 万リッタータンク 1 ラインでのことなのか、2 ライン両方なのか？ 今後また SUS ラインを立ち上げたい場合に同様の問題は発生しにくいと捉えて良いのか？

A : ボルダークの 2 ラインのうち、現時点では両方とも動いていない。SUS でも小さいタンクの経験はあり問題ないが、2 万リッターの大型タンクに苦戦したということ。今回の立上げでノウハウを吸収しており、今後仮に 2 万リッター以上のタンクを立ち上げる場合は対応出来ると考えている。

Q : バイオベンチャーへの資金流入減の影響について、ライフサイエンスの減収にどの程度影響が出ているのか？ この影響は今後加速していくのか？

A : バイオベンチャーの定義にもよるが、当社では小規模なバイオベンチャーの売上比率が 25% 程度あり、この部分がかかり影響を受けた。米国に限らず、欧州にもバイオベンチャーは相当数いるため、欧米のバイオベンチャーが大きな影響を受け、当社の案件もかなり減った。更にこの影響が加速し大きくなるとは思っていないが、足元の状況から急回復することも難しいと感じている。

Q : ライフサイエンスについて、3Q のシアトルの修繕やボルダークの完全停止、欧州での計画修繕は会社計画で織り込まれていたのか？ 下期計画に対して進捗が悪い理由は？ 事業環境は更に悪くなっているのか？

A : シアトルとボルダークに関しては当初計画には含めていない。ボルダークの 2 万リッターの培養槽は、今期業績への大きな寄与を見込んでいたが、今現在も動いていない。これは計画外。シアトルは、稼働はしているが、3Q に受注を絞り、思い切った設備改善を実施した。この設備改善は既に終わって稼働を再開している。3Q は様々な要因が重なったが、ボトムを打って、これから徐々に回復していく見込み。

Q : ライフサイエンスについて、中小の顧客からの需要が減っているとのことだが、受注競争は激しくなっているのか？ 受託能力は増加が続いていると思うが、受託案件のマーヅン維持の考え方について教えて欲しい。

A : バイオベンチャーの受託案件は明らかに減っている。当社の場合、SUB に強みがあり、バイオベンチャーの小さい案件が取れることを差別化要素としていたが、現在はここが若干ネガティブに効いている。マーヅンをどう維持するのかについては、稼働がポイントとなる。ライフサイエンスは突然受注が入るものではなく、ある程度計画的に受託案件の数やパイプラインの数が見える。先ほど申し上げたとおり、現在ボトムは脱して、来年は受託が増えるのは間違いない。受託案件をいかに増やすかがポイントとなる。

以 上